

一 次の文章を読んで、後の問い(問1～9)に答えなさい。

Ⅰ 近年の脳科学では、かつては考えられなかったような高度な実験が可能になっています。たとえば、ヒトや動物の神経細胞の活動を記録しつつ、同時に神経細胞を刺激することさえできるのです。私はこの技術を使って、海馬にそつと細い電極を刺して、海馬を繰り返し刺激してみました。するとどうでしょう。神経細胞同士の結びつきが強くなったのです。しかも、刺激のあと、ずっと結合度が増強したままでした。つまり、長期的に神経細胞が活性化されたのです。

これは「長期増強 (Long-term potentiation)」として知られている現象です。最近では英名のイニシャルをとってLTPと呼ばれています。この本でもLTPとカッコよく呼ぶことにしましょう。

LTPは脳の「記憶の素」です。これは簡単な実験で調べることができます。薬を与えたり遺伝子を操作したりして、脳からLTPをなくしてしまった時に、その動物に何が起こるかをチェックすればよいわけです。実際、LTPを奪われた動物は、気の毒なことに、記憶ができなくなってしまう。この実験結果から、記憶はLTPによって作り上げられていることが分かります。

逆に、LTPがよく起こるようにした動物では、記憶力が高まります。海馬のLTPが起きやすい状態になれば、学習能力が向上するというわけです。ということは、動物実験でLTPがよく生じる方法を見つけたことができれば、私たちの勉強にも役立つヒントが見えてくることになります。

まず、注目すべき点は、LTPは神経細胞を繰り返し刺激して生じる現象だということです。海馬を一回刺激しただけでは、決してLTPは起こりません。何度もなんども刺激を反復して、はじめてLTPが生じます。

は消えてしまいます。興味をもって対象に向かうときにシータ波が出るのです。

おもしろいことに、シータ波が出ている海馬では、少ない刺激の回数でLTPが起こります。うまく刺激すると、繰り返す回数を八十％、九十％も減らすことが可能です。十分の一の刺激数で済むのです。

こうした事実から、興味をもっているものごとは復習回数が少なくても覚えられることがうかがえます。たしかに、興味の対象、たとえば好きな歌手グループのメンバーやスポーツ選手の名前などは、苦手教科の知識にくらべて、楽に覚えられるものです。こうした記憶力増強は、おそらくシータ波のなせるわざでしょう。

さて、LTPの性質を通して、覚えようとする対象に「いかに興味を持つか」がとても重要なことが分かりました。つまり、勉強を「つまらない」と思いながらやると、結局は復習の回数が余分にかかるだけなのです。時間のムダです。

A

「今日は気がしないな」と感じたら、少し休憩をして再度トライしましょう。また、そんな日は深く寝てしまつて、明日への意欲を養うのも別案としてよいかもしれません。

ところで、そもそも勉強がおもしろいはずはないと思っている人はいませんか。それは大きな勘違いです。確かに、テスト自体は決して楽しいものではありませんが、テストのことを考えなければ、どんな教科でもきつと興味を惹かれるところがあるものです。

私は、世の中のものごとは、どんな対象であっても、必ず奥深いものだと思っています。「Bは試し」と言いますが、外から眺めているだけでは、おもしろみが分からないというケースはたくさんあります。やってみてはじめて分かる楽しさがあるのです。しかも、その道を究め

要するに、海馬の神経細胞そのものが繰り返しの刺激、つまり「復習」を必要としているのです。神経細胞それ自体がそうなのですから、私たちに復習が必要なことははや避けられません。運命なのです。復習もしないで何かを習得しようという態度は、脳科学的に見ても、間違った姿勢だと言えます。

ただし、ここでガツカリするのはまだ早いでしょう。問題なのは、繰り返し(復習)を必要としているという事実ではありません。そうではなくて、この繰り返す刺激の「回数」を何とかして減らすことができないだろうかと考えることです。

実際、刺激を繰り返す回数を少なくする秘策があります。この方法を利用すると、より簡単にLTPを引き起こすことができます。②効率のよい勉強法への道が、そこに隠されているというわけです。それでは、その方法について二つの秘訣を説明していきましょう。

Ⅱ LTPを起こすために刺激を繰り返す回数を減らす秘訣の一つ目は、その刺激を、ある「脳波」の出ている状態で与えることです。

脳波と聞けば、おそらく皆さんはアルファ波やベータ波を思い浮かべるでしょう。リラックスしているとき脳にアルファ波が現われると、テレビや雑誌などでも見たことがあるのではないのでしょうか。

しかし、ここでいう脳波はちよつと異なります。その名は「シータ波」。アルファ波やベータ波よりもゆつくりとしたリズムの脳波です。この脳波の名前を聞くのは初めてかもしれませんが、記憶においては、もっとも大切な脳波だと言い切つてよいほど重要なものです。

シータ波は「好奇心」の象徴です。はじめてのものに出会ったり、未知の場所にきたりすると、自然に脳に生じる脳波です。つまり、わくわくしたり、ドキドキしたりして、好奇心が強く外に向かっている状態です。反対に、飽きたりマンネリ化したりして興味が薄れると、シータ波

れば究めるほど、おもしろさが分かるようになってきます。

人は、教育がつけばつくほど、ますます好奇心が強くなる。

ルソー(啓蒙思想家)

だから、もし皆さんが「つまらない」という言葉を口にするところとすれば、それは「私は無知です」と自ら暴露していることになります。

勉強でも同じです。もし、つまらないと感じたとしても、しばらくは我慢して続けてみましょう。そうすれば、きつと、おもしろさを見つめることができるはずです。そのときには、皆さんの脳は自然とシータ波を出していることでしょう。

ダイアーは次のように言っています。「よし、朝だー」というのも「あーあ、朝か」というのも、あなたの考え方だ、と。確かにそうです。気の持ちようなのです。感動をいつまでも忘れない子供のような心。シータ波を出すためには「童心」と「童心」が大切です。

Ⅲ より少ない刺激回数でLTPを起こすには、シータ波が効果的であることを説明しました。しかし、もう一つとても効果的なLTPの起こし方があります。それは、私自身が世界にさががけて発見した現象です。

その方法とは「扁桃体」という脳の神経細胞を活動させることです。扁桃体は、海馬のすぐ隣にある脳部位です。小指の爪くらの大きさのちっばけな場所なのですが、動物にとつてとても大切な役割をしています。感情を生み出す働きをしているのです。喜びや、悲しみや、不安などを作っているのです。海馬が記憶工場だとしたら、扁桃体は感情の工場だと言えます。

扁桃体が活動するとLTPが起きやすくなります。言い換えれば、感情が盛んなときにはものごとが覚えやすいことになります。

そう言われてみれば、確かに昔のことでよく覚えていることは、楽しかった行事や悲しかった事件など、何らかの感情が絡んでいることが多いでしょう。人間は、そうした記憶を「思い出」という特別な言葉で呼んで、心の中に大切にしまっています。その実体は、扁桃体が活動したからLTPが起きやすくなったという現象によって説明できます。

さて、「思い出」という記憶が、ほかの記憶にくらべて、より強くヒトの脳に刻まれる理由を考えてみましょう。どうして思い出が心に残る必要があるのでしょうか。日常生活で重要な意味があるのでしょうか。その理由は、ヒトの生活を観察していただいただけでは分かりません。そうではなく、進化の過程で、まだ野山をかけまわる野生動物だったころの原始生活を考えてみなければなりません。扁桃体が記憶力を高めるという現象は、動物たちにとっては命に係わる深い意味があるのです。

現代の都会生活をしているヒトとは違い、大自然の中で生活する動物たちは、常に生命の危機にさらされています。命を落としかねない怖い体験もたくさんするでしょうし、エサの心配もしなければなりません。こうした危機を効率よく回避するために、動物たちは、敵に会って感じた恐怖や、エサにありついた場所を、きちんと脳に記憶しておく必要があります。

生命にかかわる重要な情報をいかにすばやく、つまり、少ない復習回数で、しっかりと記憶できるか否かは、動物にとって生命の存続にかかわる重大な問題です。そのための作戦が「感情による記憶能力の促進」なのです。だから脳は、扁桃体の活動によって、感情が絡んだ経験をしっかりと覚えていられるように作られているでしょう。

進化の過程で培われたこの特殊な記憶力は、いまだにヒトの脳に残っています。「思い出作り」というと、なんとなく心の温まる人間性あふれる営みのように感じますが、じつは、動物の命をかけた生き残り戦争

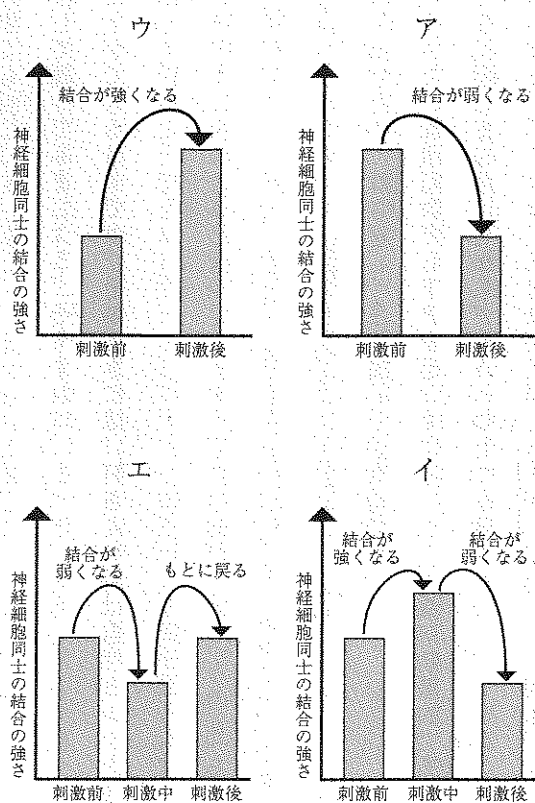
の名残だったのです。

(池谷柊二「受験脳の作り方」新潮社)

注

※1 海馬……脳の一部位。記憶として保存するかしないかを判定する。

問1 傍線部①「高度な実験」を説明した図(LTPの実験データ)として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。



問2 傍線部②「効率のよい勉強法への道」とありますが、そのことを説明した次の文章の空欄a・bに当てはまる適切な語を答えなさい。なお、空欄aは漢字三字、空欄bは漢字二字で、本文中の言葉を用いて答えること。

「a」を持って、ねばり強く勉強することが重要である。
また、「b」が盛んなときはものごとが記憶に残りやすい。

問3 傍線部③「LTPの性質」とありますが、「LTPの性質」を利用した勉強法として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国語の文章問題を解く際、設問を全部読んでから、問題文を読むこと。
- イ 地名を覚える際、その土地の写真を見ながら覚えること。
- ウ 計算問題を解く際、歌を歌いながら耳栓をして解くこと。
- エ 漢字を覚える際、寝る直前には画数が多い漢字を、早朝には画数が少ない漢字を覚えること。

問4 空欄Aに入る名言として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人はあらゆる物や人に意味を見いだそうとする。パブロ・ピカソ(芸術家)
- イ 人生で必要なものは無知と自信だけだ。これだけで成功は間違いない。マーク・トウェイン(小説家)
- ウ 安心、それが人間の最も近くにいる敵である。シェイクスピア(文学者)
- エ 食欲がないのに食べると健康を害するように、欲求がないのに学習すると記憶を損なう。ダ・ビンチ(芸術家)

問5 空欄Bに入る語を漢字一字で答えなさい。

問6 二重傍線部X「暴露」、Y「さきがけ」、Z「培われた(培う)」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

X「暴露」

- ア さらけだすこと
- イ 知識がないこと
- ウ 人におとること
- エ 意見を言うこと

Y「さきがけ」

- ア 著名人として認識されること
- イ 研究の成果を発表すること
- ウ スタートの合図以前に飛び出すこと
- エ 物事のはじめとなること

Z「培われた(培う)」

- ア 能力や性質を養い育てること
- イ 能力や性質を徐々に失うこと
- ウ 細かなことを記憶すること
- エ 過去の記憶を呼び起こすこと

問7 傍線部④「『思い出』という記憶が、ほかの記憶にくらべて、より強くヒトの脳に刻まれる理由」を本文より二十一字で抜き出しなさい。なお、その二十一字は「だから」という言葉につながるものを抜き出すこと。

問8 本文はI、II、IIIの三つの意味段落から成り立っています。それぞれのタイトルとして最も適当なものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

I

- ア 神経細胞同士の結びつき
- イ 海馬とは何か
- ウ 脳波と記憶力
- エ 記憶の鍵を握るLTP

II

- ア シータ波はリラックス工場
- イ 脳波を乱すな
- ウ 童心こそ成績向上の栄養素
- エ 何度も復習すれば成績は伸びる

III

- ア 扁桃体から好奇心が生まれる
- イ 感情を無くした現代人
- ウ 思い出という記憶の正体
- エ 原始生活と現代の都市生活

問9 本文の内容として最も適当なものを、次の中から二つを選び、記号で答えなさい。

- ア LTPは人類が生存競争を勝ち抜く中で獲得した現象で、他の生物にはない。
- イ アルファ波が出ている海馬は感情の起伏が激しくなり、記憶ができなくなる。
- ウ シータ波が出ている海馬では繰り返し刺激を与えないとLTPは起こらない。

く含まれず、純粹に『訪問者』の意で使われた『客』かもしれない』と思うことで、荒木は自分を納得させた。

それよりも問題にすべきは、男が「まじめさん」と呼ばれた点だ。いったいどれだけ真面目だったら、あだ名が「真面目」になるのか。ここは、放課後になると生徒が夕陽に向かって走る学園でも、ジーパンばかり穿いている刑事の所属する警察署でもない。出版社だ。にもかかわらず、『真面目』とあだ名がつくほどとは、これはもう超弩級の真面目と言っているだろう。

② 心してかからにやならん。荒木はますます、男へ注ぐ視線に力をこめた。

女性社員の呼びかけに応え、男は振り返った。銀縁の眼鏡をかけている。「にもかかわらず、あだ名は『メガネ』ではなく『真面目』と、荒木がまたも気を引き締めるあいだに、男はひょろ長い手足を持てあます風情で、ゆっくり近づいてきた。

「はい、まじめですが」

な、なに―。まさか、本人も真面目を自認しているとは―

荒木はのけぞりそうになり、かろうじて踏みとどまった。なんとしても男を辞書編集部へ引き抜きたいという意欲が、急速に萎んでいくのを感じる。

自分を「真面目だ」と言っているのける臆面のなさ。真面目であることを、心のどこかで軽んじているのではないか。真面目さがいかに大切な美德であるかに、気づいていないのではないか。いずれにせよ、そんな人間に辞書づくりを任せるわけにはいかない。

荒木が無言でねめつけるばかりなので、男は困惑した様子だ。ぼさぼさの髪の毛をかきまわし、思いついたように、ワイシャツの胸ポケットから名刺入れを出す。

エ つまらない勉強の中にももしろさを見いだすことができれば成績はアップする。

オ 大自然の中で生活しなくなった人類は扁桃体の活動が活発でなくなった。

カ 動物は扁桃体の活動によって強い感情が生じた場面を記憶しやすくてきている。

二

次の文章を読んで、後の問い(問10・11)に答えなさい。

あの男だ― あの男こそが、次代の辞書編集部の主(な)にふさわしい!

「きみ」

荒木は興奮を押し隠し、かたわらに立つ女性社員に尋ねた。「彼はどんな男だ」

「どんなって……」

女性社員は警戒している様子だ。

「わたしは、辞書編集部の荒木だ」

荒木は名乗った。「それで? 彼は二十七歳、院卒の入社三年目か」「たしかそうだったと思いますが、本人に直接聞いてください。まじめです」

真面目なのか。荒木は満足し、一人うなずいた。いいことだ。辞書を作るという地道な仕事は、真面目でなければ到底こなせるものではないからな。

棚の整頓具合を再確認する男に向かい、女性社員が声を張りあげた。

「まじめさん、お客さまです」

客ではなく、同じ会社の辞書編集部のものだと言っているのに、わからん娘だな。

少し腹が立ったが、「よそから来たひと」というニュアンスはまった

「どうぞ」

腰をやや折るようにして、男は両手で名刺を差しだしてきた。すべての動作が、のんびりと不器用に行われた。

だれだかわからん相手に、軽々に名刺を渡そうとするな。だいいち、俺は同じ会社の社員だぞ。荒木は落胆と憤りを押し隠し、男の手もとへ視線をやった。長い指のさきにある爪は丸っこく、清潔に切りそろえられている。名刺には、こう記されていた。

株式会社玄武書房 第一営業部

馬締 光也

「まじめ、みつや……」

「はい。馬締です」

馬締は微笑んだ。「勘違いなさったでしょう」

「いや、すまん」

荒木はあわてて、ズボンの尻ポケットから自分の名刺を出した。「辞書編集部の荒木だ」

馬締は折り目正しく、受け取った名刺を眺めている。銀縁眼鏡越しにも、澄んで穏やかな目をしているのが見て取れた。白いシャツのデザインはどことなく流行遅れで、身だしなみにもあまり気をつかっていないようだが、肌には張りがある。まだ若いのだ。これから何十年もの時間を、辞書に捧げられるぐらいに。

⑦ ふいに萌したわずかな嫉妬を、荒木はもちろん、露わにはしなかった。

「馬締とは、めずらしい名字だな。どこの出身だ」

「俺は東京ですが、両親の出身は和歌山です。問屋場のことを、馬締とも言ったそうで」

「旅人に馬の差配をする、馬の元締めということか」

荒木は体じゅうのポケットを探ったが、あいにく手帳を持ちあわせていなかったのでもらったばかりの馬締の名刺にメモした。

馬締・問屋場の別名。『広辞苑』『大辞林』とも、たしか記載なし。『日本国語大辞典』を要確認。

松本先生ほどではないにしろ、聞き覚えのない言葉を即座に記録するのは荒木の習性だ。あとで編集部用例採集カードを調べよう。まだカードが作られていないようだったら、出典（できれば、その言葉の初出文献が望ましい）を明記して、新たなカードを加えておく必要がある。編集部には膨大な数の用例採集カードが蓄積されており、辞書を作る際には、そのなかからどの言葉を採用すべきか検討を重ねる。最近ではデータ化も進めているが、やはり用例採集カードこそが、辞書編集部にとって心臓に等しいものだ。社内で分煙が叫ばれる以前から、カードを保管してある資料室は絶対禁煙だ。

名刺に突然メモを取りはじめた荒木を見ても、馬締は驚いたふうでも気を悪くしたふうでもなかった。

「名字の由来は何度も聞かれたことがあるけれど、書きとめてもらうのははじめてです」

あいかわらず穏やかな物腰のまま、興味深そうに荒木の手もとを覗きこむ。

そう、この男をスカウトに来たんだ。思いがけない名字に氣を取られ、本来の目的を一瞬失念してしまっていた。荒木は咳払いし、名刺とペンを胸ポケットに収めた。

「きみは、『右』を説明しろと言われたら、どうする」

馬締は軽く首をかしげた。

「方向としての『右』ですか、思想としての『右』ですか」

「前者だ」

「そうですねえ」

馬締の首の角度が深くなった。髪の毛がさもさ揺れる。

「ペンや箸を使う手のほう」と言うと、左利きのひとを無視することになりますし、『心臓のないほう』と言っても、心臓が右にわにあるひともあるそうですからね。『体を北に向けたとき、東にあたるほう』とでも説明するのが、無難ではないでしょうか」

「うん。では、『しま』だったら、どう説明する」

「ストライプ、アイランド、地名の志摩、『よこしま』や『さかしま』のしま、揣摩憶測するの揣摩、仏教用語の四魔……」

馬締が、「しま」という音から導きだされる単語の候補を次々に挙げだしたので、荒木は急いでさげすみた。

「アイランドの『島』だ」

「そうですねえ。『まわりを水に囲まれた陸地』でしょうか。いや、それだけではたりないな。江の島は一部が陸とつながっているけれど、島だ。となると」

馬締は首をかしげたままつぶやいた。荒木の存在などすでにそっちのけで、言葉の意味を追求するのに夢中になっている様子だ。

「まわりを水に囲まれ、あるいは水に隔てられた、比較的小さな陸地」と言うのがいいかな。いやいや、それでもたりない。『ヤクザの縄張り』の意味を含んでいないもんな。『まわりから区別された土地』と言えばどうだろう」

これは相当のものだ。あつというまに「島」の語義を紡ぎだしていく馬締を、荒木は感心して見守った。以前、同じ質問を西岡にしたときなど、

問2 傍線部②「心してかからにやらん」とありますが、それと同じ意味を表している語句を、本文中から七字で抜き出さない。

問3 傍線部③「そんな人間」とありますが、それはどのような人間か、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が真面目であることに気づいていない人間。
イ 真面目が重要な長所だとは考えていない人間。
ウ 真面目なふりをして実際には不真面目な人間。
エ 真面目なだけで他には何のとりえもない人間。

問4 傍線部④「ねめつける」・⑥「折り目正しく」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ④「ねめつける」
ア あれこれ考える
イ 品定めをする
ウ にらみつける
エ 興味を持つ

- ⑥「折り目正しく」
ア 礼儀正しく
イ きれいにたたんで
ウ 若々しく
エ 真面目な様子で

ひどかった。西岡は、「しま」と聞いても「島」しか思い浮かべられず、しかも、「海にぽっかり浮かんでいるもの」と答えたのだ。あきれかえった荒木が、「ばかもん！ じゃあ、クジラの背中も土左衛門も『島』なのか！」とどやしつけても、「あれ、そっか。難しいなあ。なんて言えばいいんですかね」と、へらへら笑うばかりだった。

真面目な顔でうなづいていた馬締は、急に棚のほうへ体を向けた。「ちょっと辞書を引いてきます」

「いいんだ、いいんだ」

荒木は腕をつかんで引きとめ、正面から馬締を見据えて言った。「まじめ君。きみの力を、『大渡海』に注いでほしい」

（三浦しをん『舟を編む』光文社）

注
※1 松本先生……辞書『大渡海』の監修を担当する国語学者。

問1 傍線部①「超弩級の真面目」と言っているようですが、そのように荒木が感じた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言葉の正しい使い方にこだわる出版社において、真面目と呼ばれている人間だから。
イ 学園や警察署ならともかく、編集社には真面目な人間しか集まっていないから。
ウ 名字が「まじめ」である人間が、真面目な人間でないことは通常あり得ないから。
エ 真面目な人間ばかりが集まる出版社で真面目というあだ名で呼ばれているから。

問5 傍線部⑤「勘違いなさったでしょう」とありますが、荒木はどのような勘違いをしていたのか、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア だれだかわからない相手に対しては名刺を渡さなくてもいいと思っていたこと。

イ 男の「まじめ」という呼び名が、「真面目」というあだ名だと思っていたこと。

ウ 男の動作が不器用だと感じたので、同じ会社の社員ではないと思っていたこと。

エ 男の「まじめ」という名字が、「馬締」ではなく「真面目」だと思っていたこと。

問6 傍線部⑦「ふいに萌したわずかな嫉妬」とありますが、それが生じた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア この男が自分より長く活動できる未来を持っていることに気づいたから。

イ この男が身だしなみに気をつかっていないことに失望を覚えたから。

ウ この男が馬締というめずらしい名字で、荒木とは全くちがっていたから。

エ この男がぱっとしない服装にも関わらず、美しい肌を持っているから。

問7 傍線部⑧「心臓に等しいもの」とありますが、その意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さっぱり解答が思い浮かばず、悩み込んでしまったということ。
イ 右について考えるうちに、首も右に傾いてしまったということ。
ウ いきなり変な質問をされたので疑問を感じているということ。
エ どのように答えるべきなのか、さらに考えはじめたということ。

問11 傍線部⑩「これは相当のものだ」とありますが、この時の荒木の様子として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男がすぐれた言葉の知識と発想力を持っていることに驚いている。
イ 初対面の人間にも物おしせず、堂々と述べる度胸に感心している。
ウ 男の答えが自分の想像していた内容に近かったので安心していている。
エ 自分の世界に没入する男の様子が、かなり深刻だとあきれている。

次の各問い（問1～4）に答えなさい。

問1 次の傍線部の読みを書きなさい。

- 1 アユ漁が解禁される。
- 2 類似の商品に注意する。
- 3 ただの素人に過ぎない。
- 4 人員の点呼をとる。

ア 膨大な数のカードのことを血液にたとえて、心臓と呼んだということ。

イ カードのデータ化は辞書編集部の基本となる重要な作業だということ。

ウ 辞書編集部はいつでも活動しており、まるで心臓のようだということ。

エ カードは活動の基本になっていて欠かせない存在だということ。

問8 傍線部⑨「本来の目的」とありますが、それはどのようなことか、二十字以内で説明しなさい。

問9 傍線部⑩「きみは、『右』を説明しろと言われたら、どうする」とありますが、荒木がそのような質問をした目的として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無意味な質問を重ねることで、地道な作業をこなす能力を試すため。

イ どれだけ言葉の知識があるか試すことで、入社試験の代わりとするため。

ウ 言葉の意味を説明させることで、辞書の編集者としての能力を試すため。

エ 男が本当に「まじめ」と呼ばれるほど真面目な人間なのかを確かめるため。

問10 傍線部⑪「首の角度が深くなった」とありますが、その様子の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 問2 次の傍線部を漢字に直しなさい。
- 1 明日カンゲイ会を開く。
 - 2 合理的なコンキョがない。
 - 3 色々なセイヤクがある。
 - 4 カイシンの作が完成する。

問3 次の傍線部の四字熟語が完成するように、空欄に入る漢字二字を書きなさい。

- 1 あまりに優柔□□な性格。（意味…ぐずぐずして、はつきりしないさま）
- 2 それは□□末節の問題だ。（意味…物事の本質からはずれたささいな部分）
- 3 公私□□するな。（意味…仕事などに私生活に関する事を持ち込むこと）
- 4 今や□□即発の危機だ。（意味…ちよとしたきっかけで大事件が起きそうな雰囲気）

問4 次の傍線部を1と2は尊敬の表現、3と4は謙譲の表現に直し

- て、ひらがなで書きなさい。
- 1 先生が言うことはもつともだ。
 - 2 教授が帰る時間だ。
 - 3 先生が描いた絵を見る。
 - 4 私が教授の家に行く。

平成三十年度

狭山ヶ丘高等学校附属中学校

入学試験問題

国語

解答用紙

(二月十日実施)

【解答用紙記入上の注意】

一、文字ははつきりと、正しいに書くこと。

二、漢字の書き取りはトメ、ハネに注意すること。

三、字数制限のある問いは、その指示に従って書くこと。

受験番号

氏名

点

一

問 1

問 2

a

b

問 3

問 4

問 5

問 6
X

Y

Z

問 7

だから。

問 8

I

II

III

問 9

問 1

問 2

問 3

問 4

④

⑥

問 5

問 6

問 7

問 8

問 9

問 10

問 11

三

問 1

問 2

問 3

問 4

1

1

1

1

2

2

2

2

3

3

3

3

4

4

4

4